

9月2日(木曜日)
ドル/円

基本的には「様子見」だが・・・

1日(水)の主な推移

チャート: 30分足 1日(水)朝6時 ~ 2日(木)朝6時

NYダウ平均

10269.47ドル
(+254.75ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.5766%
(+0.1066%)

NY原油先物

73.91ドル
(+1.99ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

①

日経平均株価が堅調に推移する中、10時前に発表された中国の8月製造業PMIが51.7と市場予想の51.5を上回ったことや、豪州の第2四半期国内総生産(GDP)が前期比+1.2%(予想:+0.9%)、前年同期比で+3.3%(同:+2.8%)と市場予想よりも強い結果になったことなどを背景にクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)で円安が進むと、ドル/円でも円安・ドル高が進んだ。

②

夜発表の米ADP全国雇用者数への警戒感から夕方からドル売りが進む中、17時30分頃に発表された英8月製造業PMIが54.3と市場予想の57.0を下回ったことで、ポンド/円でポンド安・円高が進むと、ドル/円は一時84.00円を割り込んだ。

③

21時15分に発表された米8ADP全国雇用者数が1.5万人の増加という予想に反して1万人の減少、かつ前月分も4.2万人増から3.7万人増に下方修正されるという弱い内容になったことで、発表直後にドル/円は急落し、83.66円の安値をつけた。ただ、NYダウ平均先物が底堅く推移し、徐々に上昇に転じる中で、その後のドル/円は急速に反発。23時に発表された8月ISM製造業景況指数が56.3と、市場予想(52.7)を大幅に上回る結果になると、ドル高・円安の流れは加速し、ドル/円は84.66円の高値を付けた。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 83.50- 85.00円

本日は米雇用統計の発表を明日に控え、それほど積極的に取引をするムードにはなりにくく、基本的にドル/円は主要国株価の動きやそれを受けたクロス円の動きに連れた主体性のないものになるとみる。とはいえ、雇用関連指標である新規失業保険申請件数には注目が集まる見通しだ。実際問題として、今回発表される新規失業保険申請件数の結果は3日発表の雇用統計には含まれないが、足元の市場は雇用関連のニュースに神経質になっており、急激に相場が動ききっかけとなる可能性も否定できない。市場予想を上回る悪化をみせれば、ドルが全面的に下落し、8月24日安値の83.58円を試していく展開になることもあり得る。また、雇用と同様に注目されている住宅市場の状況を見る上で、23時発表の中古住宅販売保留も同様に注目されよう。(ジェルベズ)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
9/2(木)	21:30	◎	(米) 8/29までの週の新規失業保険申請件数	47.3万件	47.5万件
	23:00		(米) 7月製造業受注指数[前月比]	-1.2%	+0.2%
	23:00	○	(米) 7月中古住宅販売保留[前月比]	-2.6%	-1.0%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com